

令和7年7月17日
糸魚川農業普及指導センター

1 7月17日現在のコシヒカリの生育状況（指標値との比較）

田植日・調査ほ場	草丈	茎数	葉数	葉色
田植日 5月2～23日 東海、西川原、東中、榎	並	少～並	やや早	淡～やや淡

- 全般的に茎数が少なく、葉色が淡い状況です。
- 平坦地の田植えが5月10日頃のコシヒカリの出穂期は7月31日頃（平年より2日早い）と予想されますが、今後の気象の経過により予想よりも早まる場合もあります。
- なお、調査ほ場ごとの出穂期の予想は以下のとおりです（表参照）。

表 調査ほ場ごとの出穂予想（田植え時期は下段調査結果表参照）

調査ほ場（地区名）	予想出穂期	調査ほ場（地区名）	予想出穂期
東海（早川地区）	7月28日	東中（根知地区）	8月9日
西川原（今井地区）	7月30日	榎（能生地区）	8月3日

2 今後の管理について

- 7月17日発表の1か月予報によると、8月は気温が高く推移すると予想されています。後期栄養の確保（穂肥）と水管理が特に重要となります。
- 1回目の穂肥をまだ施用していない場合は、生育状況を確認の上、**すみやかに1回目を施用**しましょう。
- 2回目は、高温が予想される登熟期間に確実に登熟するための栄養を確保するため、**窒素成分で1.5～1.8kg/10aを確実に施用**しましょう。

【コシヒカリの2回目穂肥について】

2回目の穂肥は窒素成分で1.5～1.8kg/10a（例：越後の輝き有機50穂肥で12～15kg/10a）

散布時期 出穂12日前（葉耳間長-10cm、幼穂長4～6cm）又は1回目穂肥の7日後

- 2回目の穂肥を施用した後も葉色が淡いままの場合は、3回目の穂肥を出穂6～3日前（走り穂が出始めた頃）を目安に施用してください。
- 全量基肥（元肥ロング肥料）でも葉色が淡い場合は、穂肥を追加しましょう。
- 斑点米カメムシ類の多発生が懸念されています。早生品種も含め、適期防除を行いましょう。

3 7月17日のコシヒカリ生育調査結果

調査項目	ほ場場所 （田植日）	指標値 ※	東海	西川原	東中	榎
			（5月2日）	（5月4日）	（5月23日）	（5月15日）
草丈	本年値（cm）	76	82	81	70	78
	平年比（%）		106	109	98	105
	指標比（%）		108	107	92	103
茎数	茎数（本/m ² ）	432	350	397	451	355
	平年比（%）		76	93	94	81
	指標比（%）		81	92	104	82
葉数	本年値（葉）	11.7	12.6	12.9	11.0	11.8
	平年差（葉）		+0.3	+0.9	-0.4	+0.1
	指標差（葉）		+0.9	+1.2	-0.7	+0.1
葉色	本年値（SPAD値）	33.4	28.0	29.3	33.8	31.2
	平年差（SPAD値）		-4.3	-4.4	-2.4	-3.6
	指標差（SPAD値）		-5.4	-4.1	+0.4	-2.2

※平年比・差とは、各調査ほごとの過去10年平均の生育値に対する現在の生育値の割合・差

※指標比・差とは、目標とする理想的な生育値（指標値）に対する現在の生育値の割合・差

次回の情報提供は7月30日頃の予定です。